

令和6年2月20日

令和5年度 第3回 学校運営協議会 議事録

1 学校運営協議会委員による学校評価

- ・教職員の在校時間短縮に努めているかの項目で十分できているの割合が減少している点について
- ・教職員の特別支援教育への肯定的評価が令和4年度の評価より低い点について
- ・ユネスコスクール、コミュニティ・スクールへの保護者の意識を高めることについて
- ・「いじめや差別をなくし、誰とでも仲よくできる児童を育てている。」や「学校は目指す児童の姿を育てるために具体的に取り組んでいる。」の2つの質問項目についての委員の評価について
- ・差別の有無について
- ・不登校児童の数について

2 学校自己評価システムシートについて

- ・スクールダッシュボードは小学校のみの導入か。→中学校も導入される。
- ・スクールダッシュボードを保護者にどうPRするのか。→アラートが出たら家庭との連携も図る。
- ・スクールダッシュボードとは別に、これまでも朝の健康観察の場面で「元気調べ」をする学校もあり、そのような事例では、朝の健康観察が教員の指導のためのだけではなく、子供同士の助け合いにつながるケースもある。
- ・宿題は、紙からタブレットになってきているのか。→現在、宿題の配信は、紙媒体が中心のクラスもあれば、定期的にタブレットに配信しているクラスもある。
- ・タブレットでの漢字学習は判定が厳しく、子どもはやる気をなくしてしまうこともある。→貴重なご意見として検討していく。
- ・今は、紙と電子とのベストミックスが推奨され始めている。例えば、漢字を学習する時に何を大事にするのかで、使用する媒体を変えていくべきではないか。
- ・子どもの視力が落ちているのは、深刻な問題として取り上げられることが多い。
- ・コミュニティ・スクールにおいて、保護者の負担軽減が課題と感じる。「自治体や行政から恩恵は受けたいが、協力はできない。」と考えている人もいる中、このように考える方の意識を変える方策はあるのか。→PTA 活動の負担軽減については、後ほど説明をいただくことになっています。
- ・「主体的に取り組む児童の育成」は、言葉尻はいいが、実際に身に付けていくのは難しいのではないか。→全国的にも大きな課題である。総合的な学習の時間のように、子どもが自分の関心があるものを学ぶことが大切である。また、各教科で学んだことを総合的な学習の

時間で活用していく、深めていくことをねらっている。わたしたちが生きる社会で起きている問題であるという意識を持たせることが大切である。

・校舎がこんなにも老朽化しているのに、リフレッシュ工事はなぜ令和17年度まで待たないといけないのか。→市の説明によると、予算や優先順位のかんけいとのことである。

・リフレッシュ工事については、古い順だけではなく、緊急度も想定して判断いただきたい。

3 諸連絡

・PTAの改編について PTA会長から簡単に説明

4 令和6年度の第1回学校運営協議会について

・5月30日

*欠席・・・大貫委員、須田委員